

下関地区



和風意匠と古典主義系のデザイン建築『山口銀行旧本店』

明治9年関門地域に進出した大正9年竣工の元三井銀行下関支店。日本の近代化建築の古典派、分離派、合理派を代表する作風の建築であり、下関にその3派の建築が揃うところに大きな価値があります。正面玄関脇の、ギリシャ建築様式である渦巻状のイオニア式とアカンサスの葉飾りのコリント式を組み合わせたコンポジット式の柱頭をもつピラスターが際立ちます。

<https://www.yamaguchibank.co.jp/portal/special/museum/old-office.html>



レトロな雰囲気を出し出す『下関南部町郵便局庁舎』

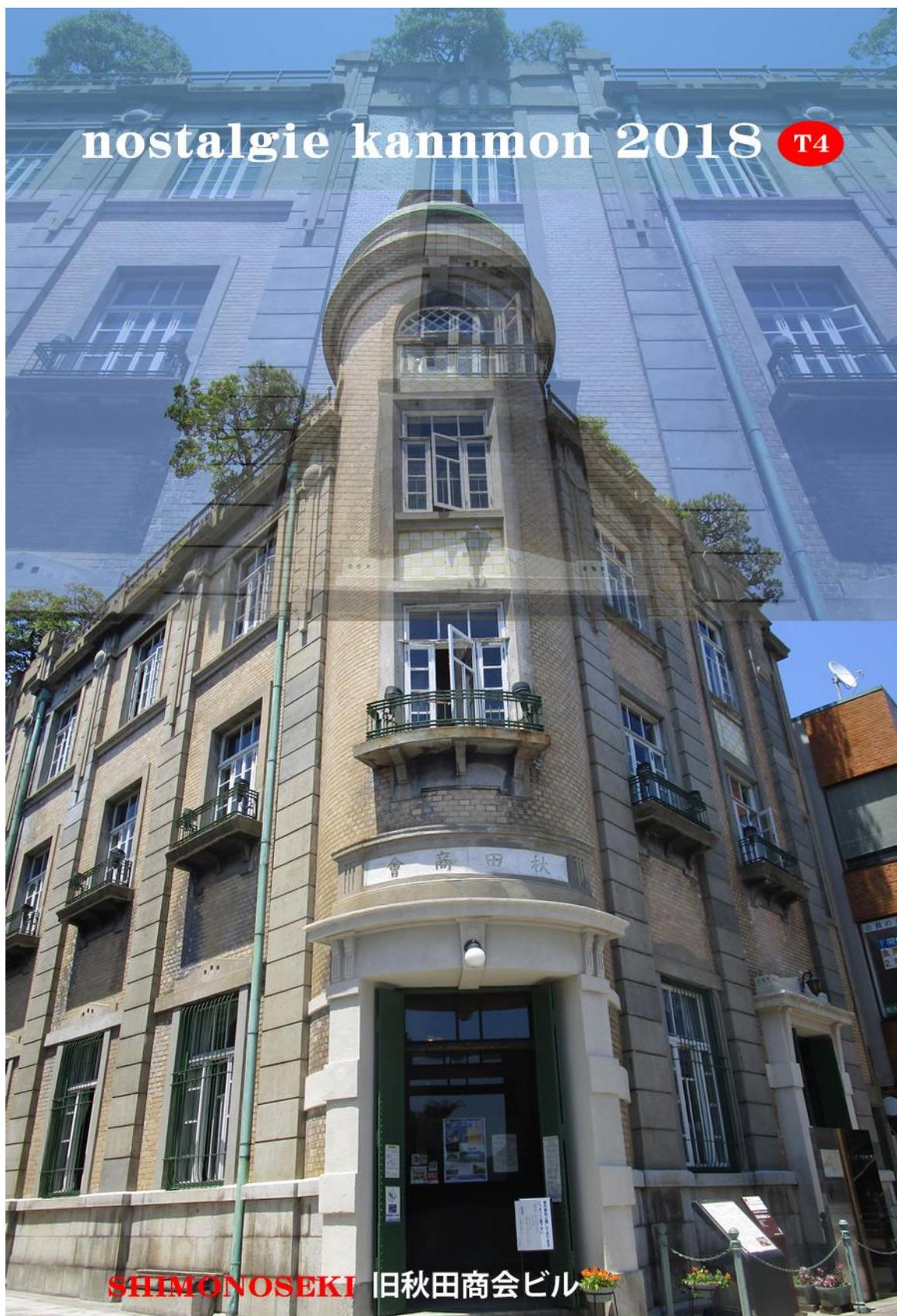
この下関南部町郵便局は明治33年に建築された現存する最も古い現役の郵便局舎です。隣には、下関の繁栄の象徴、旧秋田商会ビルがあり、この辺一帯がレトロな雰囲気を出しています。下関に現存する最も古い洋風建築物で外壁のレンガは厚さ60cmという堅固なものです。

<http://www.oidemase.or.jp/tourism-information/spots/11080>



夜間のライトアップがいい。『旧秋田商会ビル』

この旧秋田商会ビルは、大正4年（1915）に竣工した和洋折衷のユニークな建築物。屋上には日本庭園と茶室を備えている。西日本で最初の鉄筋コンクリート造の事務所建築であるとともに、わが国に現存する同種建築物としては最古級のもの。隣の下関の繁栄の象徴、「南部町郵便局ビル」があり、この辺一帯がレトロな雰囲気を出しています。 <https://fkaidofudo.exblog.jp/24013499/>



赤煉瓦に包まれた日本に現存する最古の領事館『旧下関英国領事館』

旧下関英国領事館は、領事館として使用する目的で建てられたわが国に現存する最古の明治 39 年建築。明治期の領事館の様がうかがえる貴重な建造物です。これをきっかけに、明治後期から大正にかけて日本銀行、商社、食品工場群などが続々と関門海峡沿いに開設され、当時最先端の意匠をもった近代建築が林立する街並みが形成されていきました。レトロな感じと、ガス灯がいい <http://www.kyu-eikoku-ryoujikan.com/>



時代を感じる少し色あせた煉瓦色の『旧宮崎商館』

炭輸出業を営む宮崎儀一が事務所として建てた明治40年の竣工の商館。1階中央のアーチ型エントランス、2階には5つのアーチが連なるバルコニーが特徴の煉瓦造り。赤煉瓦と白い石の組合せが旧英国領事館の意匠に影響を受けたようです。領事館の翌年の建設です。今は「ロダン美容室」として使われています。

<https://www.japanheritage-kannmon.jp/bunkazai/index.cfm?id=32>



シンプルモダン美が魅力の『田中絹代ぶんか館』

大正13年に旧逓信省下関郵便局電話課庁舎として竣工。この建物は高さを強調する直線と塔屋や窓に見られる曲線による、シンプルかつモダンなデザインが特長です。昭和41年まで局舎として使用されていました。その後平成22年より「田中絹代ぶんか館」として利用が始められました。

<http://kinuyo-bunka.jp/>



模様が目立つ『蜂谷ビル（旧東洋捕鯨株式会社下関支店）』

蜂谷ビルは「下関における捕鯨業の隆盛を偲ばせる事務所建築」として重要な文化財です。煉瓦造2階建。大正15年竣工。窓の間にある方立にはタイルが貼られ、外壁はモルタル仕上げ。外壁から突き出して設けられた柱形の頂幾何学部には、幾何学模様の装飾が特徴です。

<https://www.japanheritage-kannmon.jp/bunkazai/index.cfm?id=25>

